

株主通信

2019年3月期 上半期決算のご報告 2018.4.1—2018.9.30

株式会社インターネットイニシアティブ 証券コード:3774



代表取締役社長 勝 栄二郎

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

弊社が係わるICT^(※1)関連市場は、IoT^(※2)やAI^(※3)等の新たな情報通信技術の活用もあり、変化をしながら拡大を続けております。このような市場認識のなか、弊社は、2019年3月期上半期におきましては、サービス事業者としての強固な事業基盤を確立するためにサービス開発及び機能強化に尽力いたしました。

クラウドサービス分野では、企業情報システムのクラウド化が徐々に進むなか、オンプレミス^(※4)環境からクラウドへの円滑な移行を実現する「IIJ GIO 移行ソリューション^(※5)」を提供開始いたしました。また、「IIJ GIO インフラストラクチャーP2^(※6)」の基盤を西日本にも拡張しディザスタリカバリ^(※7)対策等を可能といたしました。セキュリティサービス分野では、「IIJ セキュアエンドポイントサービス^(※8)」や「IIJ C-SOC サービス^(※9) ベーシック」によるラインアップ拡充に加え、既存メールセキュリティサービス等が経済産業省設定「情報セキュリティサービス基準適合サービスリスト」に登録されました。モバイルサービス分野では、法人・個人での回線獲得及びスマートフォン端末の販売が事業を支える一方で、フルMVNO^(※10)関連サービスの販売と開発にも注力いたしました。IoTビジネスの進展といたしましては、簡易データ収集や分析案件に加え、工場等でのリモート監視やトレーサビリティ用途等の複合的案件が徐々に増加してきております。

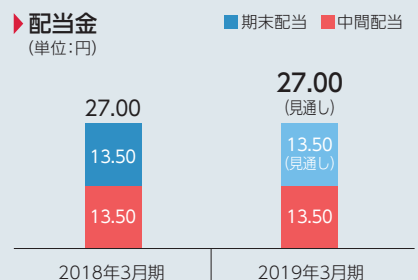
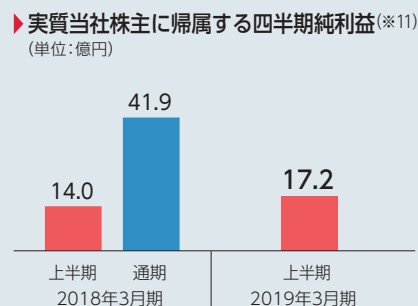
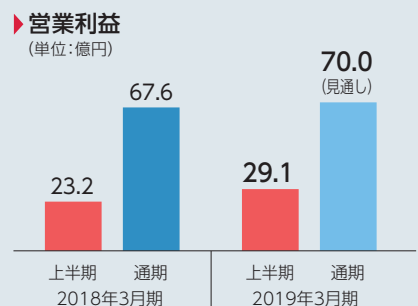
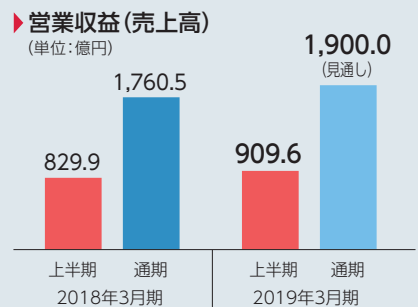
連結業績におきましては、売上高909.6億円(前年同期比9.6%増)、営業利益29.1億円(前年同期比25.8%増)、実質での当社株主に帰属する四半期純利益^(※11)17.2億円(前年同期比22.7%増)の増収増益となりました。

弊社は、信頼性や付加価値の高いネットワークサービスを基盤に、社会及び企業のシステム基盤を支え続け、ネットワーク社会の発展に貢献することで、継続的な企業価値向上を実現してまいりたいと考えております。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2018年12月

連結業績ハイライト



TOPICS / フルMVNOサービスの進展

弊社は、国内初のフルMVNOとして事業を開始して以来、法人及び個人向けフルMVNOサービスの販売に注力してまいりました。法人向けではSIMライフサイクル管理機能※12が監視カメラやドライブレコーダ等の案件で優位性を発揮し、個人向けでは訪日外国人向けトラベルSIMの現地販売が好調で、東南アジア及び欧州等に取扱地域を拡大いたしました。

今後につきましても随時に機能拡張を図りつつ法人及び個人の需要に 대응してまいります。



IR活動のご紹介 / 個人投資家の皆様向け会社説明会を開催

弊社は、毎年全国の証券会社本店及び支店において、会社説明会を開催しております。弊社の事業内容等をご説明し、個人投資家の皆様との対話の機会を設けることに努めております。今後の会社説明会にも、是非ご参加ください。

Webサイト「株主・投資家向け情報」のご案内



是非弊社のホームページをご覧ください。決算説明資料や開示資料のほか、プレスリリースやFAQ集等のコンテンツを充実させております。

URLはこちら

<https://www.iij.ad.jp/ir/>

会社説明会の様子



会社概要

| | |
|-------|---|
| 会社名 | 株式会社インターネットイニシアティブ |
| 本社所在地 | 〒102-0071 東京都千代田区富士見2-10-2 飯田橋グラン・ブルーム 電話：(03)5205-6500(代表) E-mail: ir@iij.ad.jp |

株主名簿管理人及び特別口座管理機関

| | |
|---------------------|--|
| 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 | 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 電話 ☎ (0120)232-711 (通話料無料) https://www.tr.muufg.jp/daikou/ |
| 株式に関するお問い合わせ先 | |

用語説明

- (※ 1) ICT: Information and Communication Technologyの略。コンピュータによる情報通信に関するハードウェア、ソフトウェア、システム及びデータ通信等に関する技術の総称。
- (※ 2) IoT: Internet of Thingsの略。モノのインターネットと言われ、これまでインターネットに接続されていなかった物体に通信機能を持たせることで、物体が情報通信を行うようになること。
- (※ 3) AI: Artificial Intelligenceの略。人工知能。
- (※ 4) オンプレミス: 企業等が管理する設備内に自社のサーバやソフトウェア等の情報システムを配置し運用を行うこと。
- (※ 5) IIJ GIO移行ソリューション: オンプレミス環境からクラウドへの円滑な移行を実現するサービス。
- (※ 6) IIJ GIOインフラストラクチャーP2: 新たなサービス基盤として提供している次世代クラウドサービス。従来のサービスでは、不特定多数のユーザーが利用するパブリッククラウドと特定のユーザーが利用するプライベートクラウドを別々に提供していたが、本サービスでは、高処理性能のパブリッククラウドと高信頼のプライベートクラウドを組み合わせて利用できる仕組みで提供している。
- (※ 7) ディザスタリカバリ: 地震・台風・津波等の自然災害やテロ等により壊滅的状況になったシステムを復旧すること。また、その自然災害等に備えたシステムや体制を指す。
- (※ 8) IIJセキュアエンドポイントサービス: 外部脅威の防御と内部情報の漏洩を抑止するクライアン

- ト端末セキュリティサービス。
- (※ 9) IIJ C-SOCサービス: 専用の分析基盤を構築し、セキュリティオペレーションセンター(SOC)で24時間365日セキュリティ監視を行うサービス。アラート通知やログ提供とともに、システムで起きている事象について、レポート、アドバイス及び対処等を行う。
- (※ 10) フルMVNO: SIMカードを管理するデータベースであるHLR/HSS(SIMカードに紐付けられているユーザー情報を管理するデータベース)を自社で運用することにより、従来のMVNOに比べ、自由なサービス設計が行えるMVNOのこと。独自のSIMカードの調達及び発行が可能となり、例えば、今後発展が見込まれるIoT分野において、組み込み型SIMの提供や課金及び開通管理等を自由にコントロールできるサービス開発が可能となる。
- (※ 11) 米国会計基準改正の影響を受けた保有上場株式等に係る損益を除いた実質での利益。株価変動を適正かつ合理的に予想することは困難であるため、通期の見通しは開示していない。
- (※ 12) SIMライフサイクル管理機能: SIMの状態を開通(アクティブ)と中断(サスペンド)に設定できる機能。利用者や管理者は任意でアクティブに設定でき、アクティブ後にサスペンドに戻すことが可能。様々なIoT製品の製造工程から出荷後に亘り、SIMの状態を自由に制御することが可能。また、在庫期間中に不要・不正な利用ができないよう回線を停止しておくことも可能。